

## 日本薬学会 137 年会内シンポジウム

主催: 公益社団法人日本薬学会

日時: 平成 29 年 3 月 27 日(月) 午後 13 時 15 分～15 時 15 分

会場: 仙台国際センター C会場 (大会議室 萩)

### 「中分子創薬研究のフロンティアー反応集積化が導く中分子戦略：高次生物機能分子の創製」

近年、次世代の創薬技術として中分子創薬が注目を集めている。中分子とは低分子と高分子の間サイズである中分子領域の化合物（分子量 500-5000 程度）であり、天然物、糖鎖、ペプチド、核酸など化学多様性に富んでいる。本シンポジウムでは、幅広い視点での中分子創薬に向けた展開を行っている研究者を中心にシンポジウムを計画した。生体分子の機能集積型中分子創製には、しばしば精密な有機合成反応さらには多段階の合成が必要とされる。そこで、今回、精密合成に基づいたペプチド中分子の合成、さらには合成が困難である高次生物機能複合糖質の合成に関する講演を計画した。本講演では高いレベルの科学的基礎に基づく研究に関する議論が可能になると期待される。また、中分子ペプチドの機能に着目した新たな生体機能の創製研究、さらには特殊な核酸構造に結合する中分子開発についての講演を通し、今後の中分子創薬に向けた展望について議論したい。

### プログラム

13:15～13:20	シンポジウムの開催趣旨	永次 史	(東北大・多元研)
13:20～13:40	代謝に着目した中分子糖鎖分子の設計と機能	平井 剛	(九大・薬)
13:40～14:00	ペプチド系天然物中分子の合成・機能・活性	井上将行	(東大・薬)
14:00～14:20	ペプチド化学を基盤とした中分子創薬への展開	林 良雄	(東京薬科・薬)
14:20～14:40	生物機能中分子の細胞内へ導入基盤の創出	二木史朗	(九大・薬)
14:40～15:00	核酸高次構造をアルキル化する中分子の開発	永次 史	(東北大・多元研)
15:00～15:15	総合討論		